

(様式1)

## ながのまちづくり活動公開審査申込書

申込年月日	平成 25 年 2 月 4 日	受付番号	21
活動部門・コース	1 企画・研究部門	2 実践活動部門	① ホップコース(スタート枠) ② ホップコース ③ <input checked="" type="checkbox"/> ステップコース ④ ジャンプコース
団体の名称	(フリガナ) トクテイヒエイリカツドウホウジンミドリノシミン 特定非営利活動法人 みどりの市民		
団体の所在地			
代表者	(フリガナ) タカギ ナオキ 氏名 高木 直樹		
連絡先 (連絡責任者)			
団体の設立年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
団体の 設立目的	地球にやさしい生活の提案、環境への市民の意識向上を図るための環境教育・啓蒙活動、地域の自然環境保護・保全活動を通じて、持続可能な循環型社会を構築し、自然と心豊かな地域と地球を子供たちに残していくことを目的に設立した。		
団体の 活動実績	I 地球にやさしい生活の提案 ・「エコサロン」環境重視の衣食住を楽しく学ぶサロン 15 年から現在まで開催 ・エコ商品の紹介 (布ナブキンなど)、環境と健康を考えたロハスカフェ開催 II. 環境教育・啓蒙活動 ・「環境学習リーダー養成講座」: 研修会 (H. 19) 2 回実施 自然環境教室 ・長野市環境学習リーダー研修会 ((H21 長野市からの受託)、ながの環境どこでもカレッジの企画と運営 III. 地域の自然保護・環境保全活動 ・携帯トイレの普及による戸隠、飯綱の環境保全、・水環境調査実施 IV. 地球温暖化防止・循環型社会構築 ・市民の省エネ活動: 信州省エネコンテスト実施 (H18~H24 冬までで 8 回) ・生ごみ減量アドバイザー養成及び研修講座実施、アドバイザー派遣事業 [生ごみ堆肥化によるごみの減量] (平成 17 年 7 月より市の委託事業として実施、 V 遊休農地を利用してひまわりの栽培によりひまわり油を絞っている。 VI. ながの環境パートナーシップ会議委託事業: 事務局総務および広報他		
構成員 (会員) 数	47 人		

<p>応募する活動のタイトル</p>	<p><b>竹林活用の地域資源循環プロジェクトⅡ (生ごみの堆肥化基材の品質の向上と販路の確立)</b></p>
<p>応募する活動の目的及び達成目標</p>	<p><b>現在の地域や社会の問題・課題と応募する活動の目的</b></p> <p>1. 西山地域では竹林(淡竹)が放置され、里山の荒廃地化の原因の一つとなっています。しかし、竹は様々な分野で活用でき、非常に有効な資源です。一方、長野市では生ごみの減量の対策として自家処理による堆肥化を進めています。今、その堆肥化の基材を地元で調達し消費することが課題となっています。</p> <p>24年度は、この2つの課題を克服するために、この竹の活用の幅を広げ、西山地区の荒廃竹林の整備から生じる竹チップを活用して生ごみの堆肥化を行いました。</p> <p>本年度は、竹の活用を更に進めるために、竹チップの生ごみの堆肥化の実践と研究を行い、低コストで品質の良い竹基材(竹を原料とした生ごみ堆肥の基材:竹チップ、竹パウダー)の開発を行います。又、その製品の販路を確立し、竹製品の需要の拡大を目指します。(竹パウダー:竹チップを更に粉碎して粉状にしたもの)</p> <p>今回のプロジェクトは、これらの活動により、生ごみの減量と堆肥化のさらなる推進を図り、竹林の整備が進み、地域の資源循環と地域の活性化を目的とします。</p> <p><b>応募年度の達成目標</b></p> <p>① 竹基材(竹を原料とした生ごみ堆肥の基材:竹パウダー、竹チップ等)の研究を行い品質の向上を目指す。(竹チップの薫炭作り等)</p> <p>② 竹基材の利用による生ごみ堆肥化の実践と研究 (モニターの実践報告者2名)</p> <p>③ 竹基材の普及により、生ごみの堆肥化の実践者を増やす。 (竹基材利用者200人)</p> <p>④ 竹基材の利用者及び販路の確保をする。(生ごみの堆肥化講座との連携)</p>
<p>応募する活動の具体的内容</p>	<p><b>※実施項目、場所、対象者など</b></p> <p>1. 竹基材利用による「西山淡竹会」との連携</p> <p>2. 竹基材活用の生ごみ堆肥化の先進地視察(金沢予定)</p> <p>3. 竹基材による生ごみ堆肥化の研究(竹チップの薫炭作り等)</p> <p>4. 竹基材による堆肥化実施モニターの募集及び堆肥化実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般モニター(20名)、詳細モニター(2名)の募集及び説明会</li> <li>生ごみ減量アドバイザー、昨年度モニター実践者、高齢者施設</li> <li>・一般モニター:堆肥化状況と堆肥利用の花や野菜の栽培状況の報告</li> <li>・詳細モニター:堆肥化の成分及び生ごみ堆肥を含んだ土壌分析のための情報提供(生ごみの種類と投入量及び温度変化)</li> </ul> <p>5. 生ごみ堆肥の利用による野菜・花の栽培(モニターによる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹基材の堆肥の使い方の説明会</li> </ul> <p>6. 西山淡竹会との連携により竹基材利用者のための販路の確立(直売所:西山地区の道の駅、JA等の店舗内)</p> <p>7. 出来た堆肥の成分分析</p>

年 間 計 画	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西山地区との連携</li> <li>・モニターの依頼</li> <li>・竹基材活用による生ごみ堆肥化の先進地視察（金沢市）</li> </ul>
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会：説明と基材の配布</li> <li>・堆肥化開始 竹基材の研究</li> </ul>
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥化（モニター）竹基材の研究</li> <li>・竹林の見学と西山淡竹会との交流会</li> </ul>
	7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥の熟成（モニター）</li> <li>・竹基材の販路の開拓</li> </ul>
	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥化（モニター）</li> </ul>
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ堆肥の成分分析</li> <li>・交流会（基材の配布、野菜の苗の配布）堆肥化</li> </ul>
	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥化、野菜作り</li> </ul>
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥の熟成</li> </ul>
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告会（花の苗の配布）</li> </ul>
	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹基材の販路の確立</li> </ul>
	2月	
	3月	
<p>活動することで期待される地域や社会への具体的な効果・成果</p> <p>※「公益性」の視点</p>	<p><b>1. 地域内の資源循環と環境保全</b></p> <p>生ごみの堆肥化の基材として竹基材を使用することにより、竹利用が活性化して、竹林が整備され、地域内の資源循環が可能となり、地域の環境保全に繋がります。</p> <p><b>2. 地域の活性化</b></p> <p>西山地域では竹林の荒廃地が広がり、その対策に苦慮しています。その竹林を整備し、副産物の竹基材（竹パウダー・竹チップ等）の竹製品の製造により、人材雇用が生まれ、地域が活性化します。</p> <p><b>3. 生ごみ堆肥化の継続者の増加と生ごみの減量化の推進</b></p> <p>竹基材の販路が確立すれば、今までの基材より手に入りやすくなり、生ごみ堆肥の基材として利用者が増え、生ごみの堆肥化が進み、生ごみ減量が期待されます。</p>	
<p>活動を継続するための取り組み（資金面、人材等）</p> <p>※「自立性」の視点</p>	<p>西山淡竹会との連携により</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の竹基材（竹パウダー）の品質の向上を目指します。</li> <li>・製造過程で竹パウダーより手間のかからない竹チップを生ごみの堆肥化の基材として実践研究を行い、より使いやすく品質の良い竹基材を開発し、販売できることを目指します。</li> <li>・利用者が生ごみ堆肥化の竹基材を手に入れやすくするために販路の確保をします。</li> </ul>	

	<p>長野市との連携により</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野市は家庭系生ごみの減量を段ボール堆肥化等による自家処理の方法を推進しています。そこで、市主催の生ごみ堆肥化講座の受講生やすでに生ごみの堆肥化を実践者している市民に対して、竹基材の情報を提供し利用者の拡大を図ります。</li> </ul>
<p>翌年度以降の活動内容の概要</p>	<p>翌年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西山淡竹会との連携により、竹基材の販路を更に拡大し、購入のための利便性を高めます。</li> <li>・竹基材利用による生ごみ堆肥化のパンフレットを作成し、竹基材の利用促進を進め、生ごみの堆肥化の普及を行います。</li> <li>・市民に竹林見学などの見学を通して、西山地区の遊休荒廃地の現状を知らせ、理解を深めます。</li> <li>・</li> </ul>
	<p>翌々年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西山淡竹会との連携により、竹基材の販路を更に拡大し、購入のための利便性を高めます。</li> <li>・生ごみ減量・堆肥化の普及啓発を進め、竹基材の利用促進を図ります。</li> <li>・市民に竹林見学などの見学を通して、西山地区の遊休荒廃地の現状を知らせ、理解を深めます。</li> </ul>
<p>事業の最終目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹の効用が見直され、竹基材の利用が進み、西山地域の竹林が整備され、遊休荒廃地の減少により環境保全が進むこと。</li> <li>・竹林の整備により竹基材の製造と販売が進み西山地域が活性化すること。</li> <li>・竹基材を生ごみ堆肥化の基材として活用することにより、長野市で生ごみの堆肥化を行う人が増え、ごみの減量が進み、持続可能な地域内の資源循環が行われること。</li> </ul>

必要経費

(単位 円)

科 目	金 額	
謝金・賃金	40,000円	
旅費交通費	41,600円	
消耗品費	23,800円	
通信運搬費	8,000円	
土壌検査	60,000円	
配布用基材セット	42,640円	
備品購入費		
保険代	3,920円	
雑費	3,000円	
合 計	<sup>A</sup> 222,960円	

自己資金

名 目	金 額	
会費	26,960円	
寄附金・協賛金	30,000円	
参加者負担金	12,000円	
事業収益金	21,000円	
合計	89,960円	

補 助 金 要 望 額 (C)

$$C = A - B$$

133,000円  
(千円未満切り捨て)

※補助割合・限度額

【企画研究部門】 Aの金額以下、ただし10万円以内

【実践活動部門】 (スタート枠)  $A \times 0.8$  の金額以下、ただし50万円以内

(ポップ)  $A \times 0.8$  の金額以下、ただし100万円以内

(ステップ)  $A \times 0.6$  の金額以下、ただし60万円以内

(ジャンプ)  $A \times 0.4$  の金額以下、ただし40万円以内